

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度 平成 19 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名		修学旅行マネジメント事業費						
担 当 課 係 名		観 光 課		観 光 係		作成者	細川秀清	
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち					総合計画のページ	
	基本計画	グリーンツーリズムやエコツーリズムの推進						
	主要施策	グリーンツーリズム及びエコツーリズムの推進					39	
予 算 費 目		一般 会計		7 款 商工費		1 項 商工費		3 目 観光費
事 業 期 間		平成 年度 ～ 平成 年度			新規／継続の区分			継続
性 質 区 分		☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理						
根 拠 法 令 等								
事 務 区 分		☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務						
運 営 方 法		☒ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託（全部） ☐ 補 助						

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	県内外の小中高校生
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	修学旅行や野外学習等で当市を訪れてもらい、体験をとおして地域の魅力を感じてほしい。また、後年リピーターとなって当地を訪れてほしい。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	修学旅行や野外学習等のPR及び体験学習等の手配など。

【事務事業の推移】

(単位：千円)

	項 目		単位	18年度実績	19年度実績	年度実績
	活動指標	各エージェント訪問回数	回	34	38	
効果	成果指標	学校訪問回数	回	143	161	
		学習旅行旅行受入団体数	団体	49	58	
投下コスト	項 目		総事業費	18年度決算額	19年度決算額	年度決算額
	事業費（人件費を除く）(A)			1,484	1,821	
	財源内訳	国 庫 支 出 金				
		県 支 出 金				
		地 方 債				
		そ の 他				
		一 般 財 源		1,484	1,821	
	人 件 費 (B)		—	7,853	4,843	
	職 員 数		—	1.0	0.6	
	職 員 平 均 人 件 費		—	7,853	8,071	
	(A) + (B) 投下コスト		—	9,337	6,664	
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	274,618	175,368	
			—	65,294	41,391	
	市民1人当たりのコスト(円)		—	293	212	

【事務事業の今までの成果】

仙台市内の中学生（2年）の野外活動や、札幌市内の中学生（修学旅行）を中心に訪問校が増えつつある。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	国では子ども農産漁村交流プロジェクトを推進するなど、農家体験については益々需要が増えるものと考えられる。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	農家への宿泊を望む場合が増えているため、受入農家の拡大と、特定時期の集中の改善。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性		判 定 に 至 っ た 理 由
B	A	現状のまま継続（実施）	受入をしてくれる施設（職業体験の施設、農家を含む）の整備と、事務局の一元化を含め体制の改善の余地があり、B判定とした。
	B	見直しの上で継続（実施）	
	C	大幅な見直しの上で継続（実施）	
	D	休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

- ・受入施設の拡大し、料金など明確なルール化する必要がある。
- ・現在仙台市、札幌以南の道南に絞り誘客活動を行っているが、県内及び近隣の県へのPR活動も必要と考えられる。
- ・事務局体制の一元化及び強化について検討が必要である。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
C	農業体験を中心とした「体験型」の修学旅行の受入が主であり、今後は受入農家の拡大と事務局の一本化が必要と考える。今後は修学旅行だけに特化せず、様々な学校活動（合宿など）仙北市の観光資源や設備を活かした誘致のPRも積極的に推進する必要がある。

一次評価診断図

